

平等院本尊にガラス玉

正倉院「宝物」と同種

藤原氏とゆかりの深い平等院鳳凰堂（京都府宇治市）の本尊・国宝阿彌陀如来坐像（平安時代）の台座

の中から、聖武天皇の遺品を納めた正倉院の宝物（奈良時代）と同じタイプのガラス玉3個が見つかり、24日、平等院が発表した。聖武天皇の妻は藤原氏出身の

光明皇后で、これらのガラス玉は光明皇后の遺品の可能性もあるという。

同タイプとみられるガラス玉は、花卉形で緑色の2

個と球状で黒っぽい色の1個。いずれも直径1・5センチ前後で中央に穴があいている。中井泉・東京理科大学教授らが蛍光X線などで調査した結果、正倉院に納められた奈良時代の国産ガラス玉と同じ成分組成を持つことが判明した。

調査にあたった井上曉子（日本ガラス工芸学会会長「ガラス工芸史」）は「光明皇后の遺品の可能性も考えられる」としている。

見つかったガラス玉は25日から平等院ミュージアムで公開される。



平等院の本尊台座から見つかった正倉院タイプのガラス玉。24日午後、京都府宇治市（野崎貴官撮影）